

照葉樹林文化研究会ニュースレター No.19 . Dec. 23, 2021.

照葉樹林文化研究会

照葉樹林文化研究会 2021 in Zoom (研究集会) を開催しました。

時 2021 年 12 月 5 日 場所 Zoom 上でのオンライン会議

研究発表 要旨集 3~4 ページに記載

2021 年照葉樹林文化研究会世話人会・総会 審議報告 2021 年 12 月 5 日開催

○2020 年度事業報告および会計報告 (代表および会計幹事より説明、会計監査報告)

事業 1 : 2020 年研究集会 (11 月 14 日) 招待講演 2 課題と研究発表 3 課題

事業 2 : 中尾スライド (国内分) およびモノクロフィルムの電子化

事業 3 : ブータン動画の編集

会計報告 (表 3 枚)

照葉樹林文化研究会

2020 年度 (2020 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日) 予算

| | 項目 | 金額 | 備考 |
|-----------------|-------------------------------------|--------|--|
| 【収入】 | 2019 年度 繰越金 | 60,000 | 借り入れ分 (プロバイダ契約料の 2018 年度 2 ヶ月分 1080 円と 2019 年度 1 年分の 6510 円) を含む 注 |
| | 収入合計 | 60,000 | |
| 【支出】 | HP 維持のためのプロバイダ契約料 | 6,600 | 月額 550 円で 12 ヶ月分 借り入れ分 (プロバイダ契約料の 2018 年度 2 ヶ月分 1080 円と 2019 年度 1 年分の 6510 円) 注 |
| | 支出合計 | 14,190 | |
| 2020 年度 【収支】 | 60,000 (収入) -14,190 (支出) | 45,810 | 2021 年度への繰越し予定 |
| | ニュースレター 18 で 6510 円を 6500 円とした誤記を修正 | | |

照葉樹林文化研究会

2020 年度 (2020 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日) 決算

| | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|-------------------------|--------|--|
| 【収入】 | 2019 年度より繰越 | 60,000 | 借り入れ分 (プロバイダ契約料の 2018 年度 2 ヶ月分 1080 円と 2019 年度 1 年分の 6510 円) を含む |
| | 収入合計 | 60,000 | |
| 【支出】 | HP 維持のためのプロバイダ契約料 | 7,590 | 借り入れ分 (プロバイダ契約料の 2018 年度 + 2019 年度分) 550 円 12 ヶ月分 |
| | 支出合計 | 14,190 | |
| 【収支】 | 60,000 (収入) -14190 (支出) | 45,810 | 2021 年度への繰越し |

会計監査結果 予算は適正に使用され、記録されています。監査委員 上田義弘・大澤良 印略

照葉樹林文化研究会

2021年度（2021年1月1日-12月31日）予算案

| | 項目 | 金額 | 備考 |
|------|----------------------------|---------------|-------------------------------|
| 【収入】 | 2020年度より繰越 | 45,810 | 借り入れ分（プロバイダ契約料2019年度分を含む） |
| | 会費 | 20,000 | 8件10000円+12月31日までの納入見込み10000円 |
| | 収入合計 | 65,810 | |
| 【支出】 | HP維持のためのプロバイダ契約料 | 550 | プロバイダ切り替えまでの月額 |
| | 郵便料 | 404 | 配達記録郵便料 |
| | 冊子体印刷製本費（未執行） | 57,430 | 郵送料17500を含む |
| | 支出合計 | 58,384 | |
| 【収支】 | 65810（収入）-58384（支出） | 7,426 | 2022年度への繰越し |

○研究会規約改正 令和 2 年 11 月 14 日総会で承認された規約について、ゆうちょ銀行の口座の開設（R2.4.7 承認）と紀陽銀行口座の代表者名変更に伴う追記を世話人会で承認した部分の確認

改正案

規約二 現行（目的）研究会は、中尾佐助資料を活用した研究および照葉樹林文化に関する研究を推進することを目的とする。

改正（追加）（設立年月日）研究会は 1995 年 3 月 1 日に大阪府立大学照葉樹林文化研究会として設立され、2005 年に規約を制定した。

規約六 現行 会員は年 1 回総会を開き、必要事項を審議する。

改正（追加）（総会および世話人会での議決）審議事項は、世話人会における出席者の過半数以上の承認の後、総会で審議され、出席者の過半数以上の承認によって議決される。賛否同数の場合は議長が決定する。（WEB 会議における議決方法は 2020 年 5 月 5 日に世話人会での申し合わせ事項として認済み）

規約十五 現行（資産管理）研究会の活動による収益や資産は、活動終了時に公益団体等へ寄付し、すべて放棄する。

改正（追加）研究会資産は、世話人代表および会計担当世話人が保管する。

○研究会誌（電子ジャーナル）の発行

2021 年 5 月 1 日に編集委員会を開催し、投稿規約および執筆要領を決定した。

○2021 年度よりの運営体制

世話人の再任 副会長 1 名および世話人 3 名の役職変更および削除

○2021 年度・2022 年度 会計監査委員の委嘱

◎2021 年度事業計画

1：研究集会および総会（12 月 5 日）、2：世話人会（3 月 18 日）および編集委員会（5

月 1 日) の開催、3 : サテライト集会 (日本雑草学会学術部会と共催 : 2 月 26 日および 10 月 16 日)、4 : 中尾資料の寄贈と展示会への協力 (西堀栄三郎記念探検の殿堂 : 企画展示会 5 月 1 日~9 月 5 日 8 月 26 日展示会視察)、6 : 照葉樹林文化研究創刊号出版 (準備中)、7 : モノクロネガフィルムの DB 化への予算申請 (科研費)

照葉樹林文化研究集会 2021 in Zoom

2021 年 12 月 5 日開催

■プログラム

13:00~13:30 世話人会

13 : 30~13 : 55 総会

13 : 55~14 : 00 開会の挨拶

14 : 00~14 : 25 研究紹介・報告 1 (岡山大 : 三村真紀子ほか 6 名)

ノハナショウブ野生系統と江戸系ハナショウブ園芸品種の遺伝的構造とその多様性

14 : 25~14 : 50 研究紹介・報告 2 (農大 : 木村日向子)

在来植物の抗菌性

14 : 50~15 : 15 研究紹介・報告 3 (大阪府大 : 山口裕文)

フィールドノートの無いネガフィルムからの探検の復元

15 : 15~15 : 40 研究紹介・報告 4 (近大 : 種坂英次)

ブナ帯と照葉樹林帯のきのこ食習慣の違い

15 : 40~15 : 45 閉会挨拶

15 : 45~16 : 45 オンライン懇親会

研究発表要旨集

-研究紹介・報告-

1. 「ノハナショウブ野生系統と江戸系ハナショウブ園芸品種の遺伝的構造とその多様性」
三村真紀子¹・小林孝至²・竹内鞠奈²・廣田峻³・陶山佳久³・知野奈苗²・田淵俊人² (1 岡山大学学術研究院・2 玉川大学農学部・3 東北大学農学研究科)

ハナショウブは、国内に自生するノハナショウブから品種改良された古典園芸植物である。本研究では、1) 自生地の縮小と園芸品種との交雑が懸念されるノハナショウブ野生系統の遺伝的多様性を評価し、2) 江戸系ハナショウブ品種との関係性を明らかにするために分子系統解析をおこなった。MIG-seq による SNP データから、PCA および ADMIXTURE 解析を行ったところ、野生系統であるノハナショウブと江戸系ハナショウブは異なる遺伝構造を示した。また、ノハナショウブには、地理的な遺伝的構造がみられた。発表では、野生系統と江戸系園芸系統の遺伝的多様性の成立について考察する。

2. 「在来植物の抗菌性」

東京農業大学農学研究科 木村日向子

伝統的に食物を包んだり、搔敷として使われてきた植物 32 種の抗菌性を実験によって検証した。実験は、滅菌シャーレに大腸菌を混ぜた LB 培地で行った。LB 培地上に口径 6 mm で等間隔に穿孔し、乾燥、粉碎した供試植物の抽出物（上澄み液と沈殿物）を等量入れた（穿孔法）。また穿孔した葉を、大腸菌を混ぜた LB 培地にのせた（穿孔葉法）。供試材料を培地に置いて培養し、阻止円（培地上で大腸菌が増殖できない範囲）の発生率とその面積を測定した。実験の結果、コナラ、カシワ、ナンテン、ヤブツバキ、アカメガシワ、イイギリ、ハリギリ、ヤマブドウに阻止円がみられた。これらの植物が用いられてきた行事や季節との関係を考察した。

3. 「マナスル探検 52：フィールドノートの無いネガフィルムからの探検の復元」

大阪府立大学名誉教授 山口裕文

中尾佐助の初期の海外探検は、その後の探検博物学の展開に重要な基盤をなしている。マナスルの 1 次探検、2 次探検はとりわけ注視すべきものである。しかし、1952 年の第一次探検は、フィールドノートを欠き、当時調査記録の主要方法であったブローニーの 6×6 判のモノクロネガフィルムの順不同の保存によって実体把握が難しい状態である。いくつかの報告書の記事に引用された写真とそのキャプションから注意深く画像を読んで日程を推定して探検を復元した。フィルムをスキャンした画素数によって近年のソフトによる色彩化の精度が決まり、不明瞭だった被写体は色彩化によって同定できる事を報告する。

4. 「日本のきのこ食習慣 ～ブナ帯と照葉樹林帯～」

近畿大学農学部農業生産科学科 種坂英次

日本のきのこ食習慣の違いを把握するため、一次自然植生がブナ帯からなる東北日本と照葉樹林帯からなる西南日本を比較した。その結果、きのこの利用種数は東北日本では 10～36 種、西南日本では 2～22 種であったが、利用種数のみでは両地域を明瞭に識別することはできなかった。利用種数に加えて、採取きのこの保存法（塩蔵保存、乾燥保存）に着目したところ、両地域はそれぞれ異なるクラスターとして識別できた。東北日本のクラスター中に混在した西南日本に位置する 3 県では、中国山地のブナ帯に分布する集落において多くの菌種を塩蔵する習慣があった。即ち、両地域のきのこ食習慣の違いは、東北日本か西南日本という地理的な位置関係ではなく、ブナ帯か照葉樹林帯かという植生に依存するものと把握できた。